



## むなししい人生を後にして

片村 由香

今から二年ほど前に、隣家のクリスチャンの方から「教会が主催する子育てセミナーがありますよ」と誘われ、参加したのが事の始まりでした。当時の私は、障害を持つ子どもを抱え、体力的にも精神的にも随分まいっている状態で、また、容赦なく親を求めてくるわが子に、愛情においてすら限界を感じていました。

教会のセミナーでは、「人はどう生きていけばよいのか」（子どもをどう育てていけばよいのか）という人間の生き方の根幹に関わる話が聖書から語られており、目の前の現実に一喜一憂、右往左往していた私に、一本の変わらぬ道を示してくれました。

その後も礼拝に出席したり、クリスチャンの方々と交わる中で、子育てからくるストレスを必要以上の買い物や過食で紛らわせていた自分の弱さや、虚飾を追い求めていた生き方の軽薄さなど、数々の問題点に気づかされるようになりました。そして、四十歳を目前にして、「これからの人生は神様と共にありたい」と願うようになりまし

た。神と出会い、洗礼を受け、自分の原点を持つ

た今、もはや神を知らず、足ることを知らず、空虚な根無し草のような人生に再び戻りたいとは思いません。

今は、神様の恵みの中で自分が生かされていること、子どもとの関係も、神様に頼りながら愛と祈りをもって育てていくことなどを、感謝と共に少しずつ学んでいます。



## 神にある平安

鈴木 政則

今まで私は仕事第一主義で、家庭のことは妻まかせにして、子どもの教育にもほとんど関心を示していませんでした。家庭は安らぎの場にしたという願望がありました。家のことは気にしないダメ親父で、妻とのコミュニケーション不足も拍車をかけ、それが原因で家庭崩壊の危機に直面しました。

行き詰まった妻が最初にクリスチャンとなり、続いて子どもたちも次々とクリスチャンになりました。私は家族で唯一のノンクリスチャンとなり、ますます孤立した状況で、自分の安らぎの場をテレビやゴルフなどの趣味に向けていました。しかし、心の安らぎを得ることはできませんでした。また、職場では責任のある仕事が

増え不安な毎日でした。そのため、いつも仕事のことで悩んでいました。

そんな折り、妻が教会のゴスペルコンサートへ誘ってくれたのが、イエス・キリストを知った最初の出来事でした。そこでゴスペルソングを聴いたとき、心に安らぎを感じました。その後、賛美礼拝に行くようになり、神様に賛美をささげることで心の平安を感じるようになりました。

それからは、妻や子どもと一緒に礼拝に出席し、説教の中で家庭の大切さや父親の役割も教えられ、聖書通読をすることにしました。その中で、「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」（コリント五・一七）という聖書のことばが目にとまり、イエス・キリストを信じることを心から祈り続け、昨年受洗しました。

そして今、私は、いままで自分の力で成し遂げたと思っていたことがすべて神様のご計画であつたことや、辛いこと、いやなことでも神様からの試練だと思えるようになり、毎日神様に祈っています。イエス・キリストがいつも心の中に一緒におられ、不安や孤独から解放してください、平安を得られたことに感謝しています。こうして私は、神の栄光のため全力を尽くすことに人生の目的を見いだしました。